



岐阜県 岐阜支部
「岐阜柳ヶ瀬お化け屋敷
『恐怖の細道』への支援」事業



岐阜支部
支部長
大野春光さん

岐阜随一の賑わいを誇った
柳ヶ瀬の活性化に資金協力

活性化の期待を担うお化け屋敷に協賛

岐阜市柳ヶ瀬といえば、美川憲一のヒット曲『柳ヶ瀬ブルース』に歌われた街として昭和40年代に全国的な知名度を獲得し、地方都市の歓楽街として規模の大きさを誇ったところ。名古屋市からも訪れる人が絶えなかったという。その賑わいの原点は、大衆娯楽としてのパチンコであり、昭和30年代半ばにはホールがズラリと並び、柳ヶ瀬の最盛期を支えた。

しかし、その活況も徐々に衰退し、郊外型スーパーの立地の影響を受けて、中心街の空洞化が一気に進んだ。この衰退に対し、現在の岐阜県遊技業協同組合(以下、岐遊協)の大野春光理事長が岐阜青年会議所第43代理事長であったことから、同青年会議所OBに、「岐阜市の中心市街地である柳ヶ瀬を活性化するため、何か取り組んだらどうか」と、働きかけを行った。それを受け、OB有志は一般市民を巻き込んで『『やながもん』柳ヶ瀬お化け屋敷実行委員会』を立ち上げ、「岐阜柳ヶ瀬お化け屋敷『恐怖の細道』」の開催を決定。2012年7月13日～9月23日までの73日間、柳ヶ瀬のメインストリートで空き店舗となっていた旧映画館「豊富座」でお化け屋敷を開設した(会期中の主催は『『やながもん』柳ヶ瀬お化け屋敷製作委員会』)。

実は、柳ヶ瀬は、昭和50年代後半に全国を席卷した都市伝説のひとつ、「口裂け女」の発祥の地とされている。その伝説を背景に、実行委員会ではオカルト作家の山口敏太郎さんにプロデュースを依頼、「やなお」という少年が



お化け屋敷を告知するチラシ



連日多数の人々が集まり、4時間待ちになる日も



地元のマスコミ関係者も取材におとずれ、地域活性化の一大イベントは大成功に終わった

口裂け女によって昭和の柳ヶ瀬に連れ去られてしまうという物語をモチーフにしたお化け屋敷「恐怖の花道」が製作された。岐遊協岐阜支部では、協賛としてこのイベントの開催を資金面で支援することを決定し、社会貢献基金から拠出を行った。また、イベント開催に暴力団が関与してくることを避けるため、岐遊協を通して岐阜県暴力追放推進センターから後援を受けるよう働きかけも行った。

往時の柳ヶ瀬をしのばせる賑わいが戻る

オープン当初は15000人の入場者を目標としていたが、結果的に17916人が入場した(ちなみに恐怖のあまり途中退場したのは1808人)。1日平均では約245人の入場者があったことになるが、お盆中の8月16日には415人が訪れ、4時間待ちとなるほどの盛況ぶり、会場周辺は黒山の人だかりとなり、昭和30年代半ばに匹敵するような賑わいを取り戻したという。

このお化け屋敷にちなみ、製作委員会では、「モンスター・カフェ」と銘打ち、昼はカフェ、夜は酒場を営業した。また、オリジナルTシャツやプロマイドなどのグッズ販売、似顔絵コーナーを設けたほか、プロレス「妖怪ワールドカップ」、「開運! 幸せになるライブ」など、各種イベントを開催して、盛り上げに努めた。

会期中には、新聞、テレビ、ラジオ、雑誌など数多くのマスコミ関係者が取材に訪れ、さまざまな媒体に掲載、報道された。最終日の9月23日には、期間中最高となる501人の入場者があり、細江茂光岐阜市長、柳ヶ瀬キャラクターの「やなな」なども駆けつけると共に、新聞やテレビなど報道各社が取材にあたったことで、大成功のフィナーレとなった。

製作委員会では2013年もこのイベントを開催する予定であり、柳ヶ瀬商店街をはじめとする地元関係者は、柳ヶ瀬活性化の起爆剤として大きな期待を寄せている。



地域活性化のため資金援助して完成した、お化け屋敷「恐怖の細道」



本格的なお化け屋敷に子どもたちも大興奮